



# 営農NEWS



## 水稻いもち病の防除を徹底しましょう

### 「病害虫発生予察注意報」が発表されました

県病害虫防除所の調査によると、

- ① 7月上旬現在、防除所巡回調査圃場での葉いもちの発病度（本年4.2、平年1.6）および発生地点率（本年65%、平年25%）と、いずれも平年より高い状況である。
- ② 県予察圃（水戸市内、無防除）における葉いもちの発病度（本年19.5、平年6.8）と平年よりやや高い～高い状況である。
- ③ 葉いもちの感染好適日（BLASTAM調査）は、6月第4半旬および7月第1、2半旬に広範囲で認められている。
- ④ 向こう1か月の気象予報で、前半は平年に比べ曇りや雨の日が多いと予想され、発生を助長する条件である。以上のことから、

### 病害虫防除所より令和3年7月9日付で「病害虫発生予察注意報 第2号」

### 葉いもちの発生が平年より多い状況です！

～防除を徹底しましょう！～ を発表しました

#### 1. 葉いもちの防除

いもち病が発生しやすい水田（例年、いもち病の発生する水田、育苗箱施用剤を使用していない水田、日当たりや風通しの悪い水田等）を中心に観察し、葉いもちの発生を認めたら、周辺株や上位葉への進展を抑制するため、薬剤防除を実施してください。

#### 2. 穂いもちの防除

穂首いもちは、出穂直後から10～15日後くらいまでに感染すると被害が大きくなります。その後20～25日目くらいまでは収量に影響する被害が発生する恐れがあり、枝梗いもちや籾いもちでは、さらに感染期間が長くなります。穂いもちの主な伝染源は葉いもちの病斑で、**止葉以下3葉目までに病斑がある場合には、特に注意が必要**です。葉いもちが発生していて、出穂前～出穂以降の天候が不順と予想される場合は、**出穂期の前に予め薬剤防除**を行う必要があります。なお、ジャンボ剤や粒剤では、薬剤により効果発現までの期間が異なるため、使用時期を確認して下さい。

表1 水稻 いもち病の主な防除薬剤 (令和3年7月13日現在)

薬剤名	希釈倍数または施用量	使用時期 / 使用回数	分類
コラトップジャンボP	小包装(パック) 10～13個(500～650g) / 10a 投入	葉いもちに対しては初発20日前～初発時、穂いもちに対しては出穂30日前～5日前まで / 2回以内	16.1
ゴウケツパック	小包装(パック) 10個(450g) / 10a 投入	出穂5日前(収穫30日前)まで / 1回	16.3
フジワン粒剤	3～5kg / 10a (湛水散布)	葉いもちに対しては初発7～10日前、穂いもちに対しては出穂10～30日前(収穫30日前まで) / 2回以内	6
キタジンP粒剤	3～5kg / 10a	葉いもちに対しては初発7日前～初発時、穂いもちに対しては出穂7日～20日前 / 2回以内	6
ルーチン粒剤	1kg / 10a (湛水散布)	収穫30日前まで / 2回以内	P3
オリゼメート粒剤	3～4kg / 10a	葉いもちには初発の10日前～初発時、穂いもちには出穂3～4週間前(収穫14日前まで) / 2回以内	P2
アミスターエイト	1,000～1,500倍	収穫14日前まで / 3回以内	11
トライフロアブル	1,000倍	収穫14日前まで / 2回以内	U16
ブラシフロアブル	1,000倍	収穫7日前まで / 2回以内	U14と16.1
ノンプラスフロアブル	1,000倍	収穫7日前まで / 2回以内	U14と16.1

注1) パックや粒剤は、水田が水深3cm以上で均一に散布し、3～4日は湛水状態を保ち、散布後一週間は落水、かけ流しを避けてください。

注2) 分類欄には、FRACコードを記載しました。同一分類(コード)は作用点が同じなので、連用は避けてください。

農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。

※JA全農いばらきホームページでもご覧になれます。



農機営農支援部 営農支援課

電話：029-291-1012 FAX：029-291-1040